

前期終業式 式辞 ～ 夢をつなぐ ～

8月にパリオリンピックが開催され、世界中に多くの感動を与えました。日本選手の活躍する姿にも、多くの人が胸を打たれたと思います。私が最も感銘を受けたのは、レスリングに出場したロペスヌネス選手（キューバ）が5連覇という偉業を成し遂げ、優勝決定後、突然マットでシューズを脱いで場内の喝采を浴びたシーンでした。「マット上に夢を置いていく。これからこの夢は、若い選手たちのものだ」。このように語り引退の意志を示し、これからオリンピックを目指す若い選手に夢をつなぎました。

今年、我々の身近にある阪神甲子園球場が会場100年を迎えます。100年の間、ここでは多くの感動が生まれ、今なお語り継がれているドラマが数多くあります。その中で、私が最も印象に残っている出来事があります。那覇市立美術館に高校球児の写真が飾ってあります。その写真は、戦後初めて沖縄代表として首里高等学校が甲子園球場に出場し、試合後に砂を集めている写真です。1958年、沖縄はまだアメリカ統治下にあったため、部員はパスポートを持って本土に渡りました。そして、試合終了後に他の高校生と同じように甲子園の土を集めて故郷に持ち帰ろうとしました。しかし、甲子園の土を持ち帰ることが許されず、帰りの船中ですべて海に捨てられてしまうという衝撃的な出来事が起きました。この事実、沖縄の人たちはこう考えました。「戦争はまだ終わっていない。甲子園で優勝し、深紅の大優勝旗を沖縄に持ち帰ったときに戦争は終わる」。それ以来、沖縄の人たちは県民をあげて高校球児を応援してきました。夢は時を超えて引き継がれ、52年後の2010年夏、興南高等学校が沖縄県代表として初優勝し、深紅の大優勝旗が初めて沖縄の地に渡りました。優勝インタビューの第一声で、主将が述べた「沖縄県民全員で勝ち取った優勝です」という言葉が今も深く印象に残っています。

私たちの西宮香風高校は、今年で創立24年目を迎えます。甲子園球場と同じように、この学校でも多くの夢が生まれ、先輩方は夢を追い求めてきました。校長室に1枚の写真があります。それはまだ大学進学者が少なかったころ、志のある先輩方が東京大学の前で撮った写真です。先輩方の思いは「いつかこの写真を見た後輩達が、自分たちと同じように夢や希望を持ってもらいたい」というものでした。そして、先輩方の思いは時を超えて引き継がれてきました。

現在、本校では多くの生徒が大学進学を目指し、毎年国公立大学や難関私立大学に合格しています。昨年は日本で最難関の大学、慶應義塾大学合格者が出ました。また、部活動においては、8月に開催された全国大会に8つの部活動が出場し、3人が日本一になりました。校長室に写真を残してくれた先輩方は、おそらく現在のような西宮香風高校の姿を夢見ていたと思います。

前期を振り返ってみると、多くの場所で自分自身をしっかりと表現し、夢と希望を追い求める姿を見せていただきました。そのたびに、皆さんから力をもらいました。皆さんの夢は大小様々です。全国大会で優勝する、大学に合格する、楽しい学校生活を送る、絶対に卒業する。しかし、それぞれの夢は自分一人では叶えることができません。皆さんの中には、具体的な夢や希望をイメージすることができず、また言葉にすることがない人もいるかもしれません。しかし、今この時間を精一杯、前向きに過ごしているならば、自分の未来を切り開いていることは確実です。そして、その姿は見ている人に希望を与え、西宮香風高校の大きな夢を築くことになります。自分の存在そのものが、周りの人に影響を与え、時に希望と力を与えることがあることを忘れないでください。

前期の皆さんの活動を見て、確信していることがあります。いつか私が西宮香風高校からいなくなっても、また皆さんが卒業しても、皆さんが大切にしたい夢は本校の生徒と先生方に引き継がれると信じています。本校に入学した以上は、夢と希望を追い求める高校生であってください。後期も実りある高校生活を送ってくれることを願っています。

令和6年9月24日

兵庫県立西宮香風高等学校長 桑田 圭介